

ウォーキングで知る小さな社会

(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



想像するのは楽しいが…

2009/06/11

CL実践には観察する課題がいろいろある。歩きながら、店の名前(屋号)を知る、ポストの場所、珍しい表札をみつけるなど…。一年半前、ウォーキング途中の道路脇に分厚いコンクリートと木材を使った立派な家が建った。その新築の家の門は茶色の木の扉でコンクリート扉には金属文字が浮き出た形で表札が取り付けられている。二所帯住宅らしく、大文字で大森とあり、その左横に息子の大森〇〇、その下に妻の名前が大文字であり、さらにその下に、小文字でなんと「海姫」。「あき」なのか、「みき」と呼ぶのか。童話の人魚姫をイメージしたのか、あるいは海が好きな家族なのか、親心になって名前の由来を歩きながら想像した。ところが一年後の今日、その家の前を通ると。コンクリート扉の隙間から中庭が垣間見えて、アイボリー色のパラソルとテーブルが置いてあって、そのパラソルの下にスキューバダイビング用の男物スーツが吊るしてあった。そうか、海にもぐって海の美しさを人一倍知っているお父さんなのかもしれないとやはり想像で納得した。夫婦で海に潜り子供が授かって人魚姫の物語の世界をイメージして、名前を付けたのかもかもしれない。と歩きながらあれこれ想像が湧くままに注意を自分に向けていると…おっとストップ、赤信号。

2009/06/20

早朝、中沢乳業の倉庫の前を通ると一人は同社のマーク入り作業服を着た社員とYシャツと紺のズボンの上司と見える社員が今晚の飲み会らしきことを大声で話し合っている。倉庫の前はトラックが止まる広い駐車場より2段高く、そこで白っぽい作業服の男性は大きく身振り手振りをして、まるで舞台のパフォーマンスのように話している。その人に負けじとこれまた、大きく手を広げたりして駐車場の車のそばに立ってYシャツの男性も大声で話す。二人の間は6メートルは離れている。ほかに人影は見えない。話は長引いていて、なぜもっと近づいて話さないのだろうか不思議だ。お互い自分の職務に忠実で、仕事の場所から離れずらいのかも。責任感の強い頼もしい社員二人のよう。

高齢化の街

2009/07/04

私の前を六十代後半と見える夫婦が散歩している。ご主人が犬を連れ、その後ろをビニール袋とシャベルを持った奥さんがついていく。塀の道際に茶色の犬の糞なのか、奥さんがシャベルで取りながら、「動いてるよ」と言って、袋に放り込む。遠めからちらと見えたのはどうも大きな茶色の芋虫か毛虫のようだ。奥さんは、袋を覗いて「やっぱり動いてるよ」とご主人に向かって言う。奥さんの言葉に「うん、うん」と答えただけでご主人はいつものことのように犬を連れて先に歩いていく。奥さんはシャベルでまた中身を出して道に置き、「動くよー」と言ってもう一度袋に入れて、先に行ったご主人の後について行く。動く糞をどうするのかなー？

2009/07/11

真間川で八十代と見える老婆がショッピングカートに二匹の犬のロープを繋いで、先に歩かせカートの手すりを押して橋の上を歩いている。ブルドックまがいの犬と日本犬でそれなりに大きい。ブルドックまがいの犬が橋の途中で止まって欄干の端っこに寄って行こうとする。日本犬は静かに止まって

ブルドックまがいの犬がまた歩き始めるのを待っている様子。おばあさんが、「なんでそんなに引っ張るの！」「ひっぱっちゃ駄目でしょう」と小さな孫に言い聞かせるように静かに、2匹の犬に向かって窘（いまし）めると、不思議なことに老婆の言葉に素直に従って、二匹は静かにまた前に歩き始める。おばあさんのカートと歩みに合わせて、ゆっくり静かに。老婆のご主人にちゃんと随（したが）っている名犬二匹。

小さな愉快なできごと満載の環境

2009/07/26

年平均週6日のウォーキングコースは重複する道を入れると8通りある。それでも四季折々の変化は別として見回す環境の変化は数少なく限られてくる。道端の小さな名もない可愛らしい白い一輪の花は昨日見つけたし、建築中の家は屋根が葺かれてそれほど作業は進んでいない。大した変化がなく、捜す課題をするのも面白くないなと思ったとたん、ナンバーが14-14と17-17の車が止まっているのが目に入る。「おっ！」と驚いて、通り過ぎるとその先の家の前にパーキングした車が25-25ときた。事実の演出は大したものと感じるやら有り難いやら…。目的に向かって必要な行動を継続していると事実からのごほうびは創造性のあるサプライズ。

2009/07/28

新築の子供の姉弟二人が、北と南の角にそれぞれ離れて立って「アハッ！アハッ！」と広げた左手を耳の横にあてて、首を左に向けて興じている。引っ越してきて間もないのか、お母さんがすぐ家の玄関ドアの近くで「あんたたち、これをこっちに持っていきなさい！」と怒った顔で命令しているが、耳をかさずに二人だけに通じるゲームを面白がって遊んでいる。子供は新しい家で夏休みで楽しそうだが…。

2009/08/3

電車内のドアの傍に白髪の混ざった中高年の男性が立っている。やおらショルダーバッグから目薬を取り出し、点眼をし始めた。その姿に思わず笑いをこらえた。その男性は目に液体がうまく落ちるように頭を後方にそらし、さらに口を大きくあぐりと開けた。口に点眼するわけではないが、似たような点眼方法を私や家族もする。関係ないからと口をしっかりと閉じるより自然な方法なのかもしれない。それに、周りで見る側に笑いを誘う一石二鳥の方法に違いない。あなたは？（千葉県市川市CLインストラクター）

 [目次へ戻る](#)